

1. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 内 容：①花きの害虫防除は化学農薬が中心であるが、登録農薬が少なく同じ薬剤の連用による感受性の低下で被害が抑えきれず、化学農薬に頼らない防除技術が求められていることから、赤色 LED 防虫灯の日中照射によるアザミウマ類の発生抑制効果を検証した（品目：オキシペタラム）。
②周年栽培されるグロリオサは夏秋期の高温の影響による切り花品質の低下や、春冬期の塊茎の肥大が悪く、切り花品質への影響が問題になっていることから、環境測定装置等（温湿度、地温、体積水分率等測定等）を導入することによって、栽培環境の改善による切り花や塊茎品質の向上を検討した（品目：グロリオサ）。
- 結 果：①アザミウマ類の発生活長は慣行区と大きな差はなく推移しているが、発生の多くなる3～5月に向けて引き続き調査を継続していく。
②夏秋期の切り花品質の低下は、かん水不足が原因の1つと考えられた。栽培環境（砂地や夏期の高温）を考慮すると1回/日のかん水から、2～3回/日のかん水が必要と考えられ、次年度はかん水管理の改善につなげていく。



2. 「高校生花いけバトル」にかかる取り組み（花いけバトル練習会）

自由な作品づくりから若い世代に花をいけることの楽しさを感じてもらい、ユリやグロリオサ等の県産花きに興味や親しみを持ってもらうことで、将来的な花の消費拡大につなげることを目的に実施した。

- 実施日：①令和6年6月9日、②7月28日、③9月8日
○実施場所：土佐花き園芸市場
○参加者数：①8校・32名、②6校・20名、③7校・34名、
○実施内容：県産花きを使用して、参加者が制限時間内に自由に作品を作った。県内のフローリストが花の特徴や生け方のポイントなどを伝え、それをふまえて再度作品を作るということを繰り返し、花の生け方や楽しみ方の習得につなげた。また、生産者から花の生産について話してもらい、県産花きへの理解を深めた。
- 参加者の声：参加者から「楽しかった」「また花をいけたい」「花のいけ方をもっと知りたい」「自宅でも花を飾ってみたい」「次の練習会も参加したい」との声があった。



3. 社会人を対象としたワークショップ

花きの購入額の少ない社会人層にアプローチをかけ、県産花きの消費拡大につなげることを目的としてアレンジメント教室を実施した。

- 実施日：①令和6年6月9日、②7月28日、③9月8日（上記花いけバトル練習会と同日）
○実施場所：とさのさと アグリコレット
○参加者数：①・②・③ともに20名
○実施内容：花いけバトル練習会で使用した花材を活用し、アレンジメントを作成した。講師からは、花を扱ううえでの基本的なポイントや、自宅で気軽に花を飾る事例などを紹介した。
- 参加者の声：参加者から「楽しかった」という反応があった他、「このような機会を増やしてほしい」という要望もあった。また、後日実施したアンケート結果から、今回のワークショップを機に実際に花を自宅に飾ることが増えたとの回答もあった。

